

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 2009年9月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4070703576		
法人名	有限会社 サンコー		
事業所名	グループホーム グリーンリーフ 星ヶ丘		
所在地 (電話番号)	〒807-1264 福岡県北九州市八幡西区星ヶ丘六丁目1番37号 (電話) 093 - 618 - 7726		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5 - 27		
訪問調査日	平成21年9月15日	評価確定日	平成21年10月1日

【情報提供票より】 (平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	28 人	常勤 10人, 兼務 1人, 非常勤 17人, 常勤換算 9.6	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨スレート葺平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,500 円	その他の経費(月額)	水道光熱費12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	又は1日 (1,300)円			

(4) 利用者の概要(8 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	8 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人一寿会西尾病院 ・ はなだ歯科医院 ・ 井上内科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームグリーンリーフ星ヶ丘は、小学校、大型ショッピングセンター、公共施設、公園、病院など利便性の良い、環境に恵まれた住宅街の中にある。ホーム内は明るく開放感に溢れ、利用者の手作り品が、ホームの廊下や居間に飾られ温かい家庭的な雰囲気である。居室は、トイレ、洗面所が完備され、豊の部屋もあり、利用者が思い思いにのんびりと過ごせるよう配慮している。利用者の希望をもとに、栄養士によりカロリー計算され、一人ひとりに合わせた形態の、ミキサー食、きざみ食など、食事は栄養バランスもよく、利用者はとても美味しくように食事をしている。自治会に加入し、地域の一員として行事に参加したり、近隣の小学生との交流も盛んで利用者の大きな楽しみとなっている。また、提携医療機関の定期的な訪問診療、理学療法士による訪問リハビリ、看護師との連携など、医療の取り組みも充実し、利用者や家族からの信頼も大きい。管理者、職員は、ホームの理念を大切に、利用者の能力を活かした役割分担をさげなく支援し、細やかな見守りの中、地域の中で安心して暮らし続けていけるよう努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は「職員を育てる取り組み」「チームでつくる利用者本位の介護計画」「現状に即した介護計画の見直し」「重度化や終末期に向けた方針の共有」「栄養摂取や水分確保の支援」であったが、管理者、職員の努力の結果、改善されている。今後は、現状に満足せず、介護サービスの質の向上を目指して努力されることを期待する。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者と職員が話し合い作成している。外部評価、自己評価の意義を、職員全員が理解し、一人ひとりが分担して自己評価に取り組み、外部評価への意識を高め、日々のサービスに繋げていくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、家族代表、自治会会長、地域NPO法人役員、司法書士、地域包括支援センター職員、介護老人保健施設事務長、特定施設施設長、グループホーム職員のメンバーで、2ヶ月毎に開催され、その内容は詳しく議事録に記録されている。会議では活発な意見交換が行われ、家族の意見、要望を聴きとる場にもなっている。会議で出された意見は職員に伝達し、検討しながらサービスの向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見、要望、相談は、運営推進会議時や、ホーム来訪時に聴き取るように努め、出された意見などについては、すぐに職員間で話し合い、改善に向けて検討し毎日のケアに反映している。また、定期的に家族会を開き、家族とホームとの信頼関係と家族同士の繋がりを深めるよう努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の一員として清掃活動に参加している。市民センター主催の七夕祭りやクリスマスパーティーなどの行事に参加したり、ボランティアの来訪や、近隣の小学生との交流は盛んで、リコーダー演奏、歌、あやとり、お手玉などを一緒に楽しみ、子どもたちが帰る時には、玄関で見送る利用者が涙を流す場面も見られた。学校の休みや放課後、子どもたちが頻りにホームを訪ねてくるようになり、利用者の大きな楽しみになっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の自主・自立を尊重すると共に、地域における入居者の暮らしを支援する」という理念を柱に、管理者、職員は利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、会議などで理念について話し合い、意識付けをすることにより、理念を共有し、理解して、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、利用者や職員は、地域の一員として、清掃活動や市民福祉センター主催の七夕祭、クリスマスパーティーなどの行事に参加している。地域の小学4年生が定期的にホームを訪れ、リコーダー演奏、歌、あやとり、お手玉などで交流し、子どもたちが帰る時には、利用者が別れを惜しみ、涙することもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員が前回の外部評価結果を活かし、熱心に改善に取り組んだ結果、大幅な改善がなされている。今回の自己評価は、管理者と主だった職員とが話し合って作成している。		職員一人ひとりが分担して自己評価作成に取り組み、作成に関わることで介護に対する意識を高め、サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、家族代表、自治区会長、地域NPO法人役員、司法書士、地域包括支援センター職員、老人保健施設事務長、特定施設施設長、ホーム職員のメンバーで、2ヶ月毎に開催され、活発な意見交換の内容が議事録に記録されている。出された意見や質問は職員全員で検討し、サービスの向上に繋げている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席し、意見、情報の交換を行っている。市の担当者に対しても、ホームの現状報告を行い、連携に努めている。	○	ベテランスタッフによる介護相談会、地域の独居老人への声かけに積極的に取り組むなど、市町村と連携を図りながら、協働していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修に参加し、パンフレット、説明書を用意し、管理者や職員は制度を理解し、いつでも説明やアドバイスができる体制である。現在、制度を利用されている利用者がいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、「グリーンリーフ星ヶ丘だより」を送付し、ホームの行事やお知らせ、利用者の暮らしぶりを伝えている。また、家族の来訪時に、金銭管理を報告し、サインを頂くと共に、連絡帳やアルバムを見ていただきながら日々の様子を報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望、相談は、運営推進会議時やホーム来訪時に聴き取るように努め、ホームの運営に活かしている。また、定期的に家族会を開き、家族とホームとの信頼関係と家族同士の繋がりを深めるよう取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない。各ユニットの職員は固定化しており、馴染みの関係であるが、やむおえず離職、異動のある場合は、利用者へのダメージを少なくするよう、声かけなどを工夫し配慮している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別などの制限はない。休憩室にはロッカーを配置し、職員の休みの希望を聞きながらローテーションを組むなど、職員が生き生きと、働きやすい環境づくりに努めている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	人権に関する学習会に参加したり、内部研修を行い、職員に対する人権教育に取り組み、利用者の尊厳を守りながらのケアに取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	食事のカロリー計算は栄養士に委託し、食事形態は、ミキサー食、キザミ食など、利用者一人ひとりの状態に合わせて細やかに対応している。食べる量や水分量は個別に記録し、一人ひとりの状態を把握し、情報を共有しながらケアを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に参加し、職員同士の交流、親睦を図るとともに、情報交換をしながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の見学、体験入居を行い、ホームの行事へ招待し、利用者、家族が安心して、納得したうえで入居されるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は心配されたり、心配したりの関係で、掃除や食事の準備、おやつ作りなどを一緒に行うなど、互いに支え合う関係を築いている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声かけ、見守りのなかで、利用者の独り言などを聞き逃さず、一人ひとりの思いや希望を出来るだけ汲み取る努力をしている。また、意向の表出の難しい利用者に対しては、家族からの聴き取りや過去の履歴から読み取り、毎日のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意見や要望を聴き、ミーティング時に職員の気付き、医師や関係者の意見を出し合い、介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しをしている。利用者に変化が生じた場合は速やかに対応し、その都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関受診の付き添い、提携医療機関による定期的な訪問診療、理学療法士の訪問リハビリ、看護師との連携など、利用者や家族の状況、希望に応じた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する医療機関の受診を支援している。24時間体制で提携医療機関と連携し、利用者、家族が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針を、重要事項説明書の中に明記し、利用者、家族に説明し、全員で方針を共有し、安心してサービスが利用できるよう支援している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、研修やミーティング時に議題として取り上げ、職員の意識向上を図り、さりげない言葉かけや対応に配慮し、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。また、個人情報の取り扱いにも細心の注意を払っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調、気分を大切にしながら、利用者のペースでその人らしく過ごせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながら栄養士の指導のもと献立をたてている。食前の嚥下体操、おしぼりの準備や配膳、下膳、食器洗いなど利用者と職員が和気藹々と行っている。食事のテーブルでは、利用者同士が世話をやき合う等、家族のような光景が見られる。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は週4回である。利用者のその日の状態や希望に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒まれる利用者に対しては、スタッフが交代で辛抱強く声かけをするなどの対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者、一人ひとりの生活歴や力を活かし、おしぼりの準備、掃除、洗濯、炊事、食器洗い、縫い物、草取り、水やりなど、役割を持って張り合いのある日々を過ごせる様支援している。また、近所の大型ショッピングセンターへ買い物に出かけたり、夏祭り、紅葉狩り、餅つき等、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候、利用者の体調を見ながら、畑、花壇の草取り、水やり、散歩など、ホームの中だけで過ごさずに戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員は利用者の癖や行動を理解し、見守り支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を行い、夜間を想定した訓練も行っている。地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		災害に備えた非常用食料、飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のカロリー計算は栄養士に委託し、食事形態は、ミキサー食、キザミ食など、利用者一人ひとりの状態に合わせて細やかに対応している。食べる量や水分量は個別に記録し、一人ひとりの状態を把握し、情報を共有しながらケアを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前のプランターには季節の花が植えられ、訪れる人を和ませている。居室の入り口に手作りの表札と花を飾り、壁には利用者の笑顔の写真や手作りの折り紙の作品が飾られ、温かい家庭的な雰囲気である。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面所、トイレが完備され、畳の部屋もある。利用者にはタンス、テレビ、椅子、家族の写真、お気に入りの絵など馴染みのものを持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるよう支援している。		